

エスペラントは心の国境を消すことばです

Organo de HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Heroldo de HEL

N - r o 141

M a j o 2012

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[E n h a v o / 目次]

- 表紙、E n h a v o / 目次 P. 1
- Blogo pri Zamenhof-Strato / ブログ : ザレスキ・ザメンホフ P. 2
「ザメンホフ通り」—エスペラントとホロコースト
/elkoravolo/20111128/ el Reto
- Neĝa Katastrofo en Japanio / 日本の豪雪災害 / KAWAI Yuka P. 4
- S p i k u m i t a j / 落ち穂拾い / La red. P. 6
- Danke ricevitaj —受領郵便物— (星田淳 扱い) P. 7
- Protokolo de la 12a Kunsido de Loka Kongresa Komitato por la P. 9
99a Japana Esperanto-Kongreso [第99回日本大会12回LKK 議事録]
- Protokolo de la 5-a Komitata Kunsido de HEL / P. 11
北海道エスペラント連盟 第5回委員会記録
- [編集後記 / Redaktanto parolas ...] P. 12

Blogo pri Zamenhof-Strato

ブログ：ザレスキ・ザメンホフ 「ザメンホフ通り」

————— ザメンホフ通り—エスペラントとホロコースト

elkoravolo/20111128/ el Reto

Jen estas blogo trovita en reto. La bloganto ofte tus^{as} pri aferoj rilatantaj al Esperatno. Ĉi tie li skribas pri la libro Zamenhof-Strato, originale verkita de L.C, Zaleski-Zamenhof kaj Roman Dobrzynsky, kaj japanigita kunlabore de 67 japanaj esperantistoj.

ブログで見つかった書評を紹介します。日本のエスペランチスト67人の共同翻訳でこの本が出てから7年になりますが、思い出して読み返すもよし、まだの方はお求めください。ザメンホフとその家族、エスペラントの誕生と歴史についてのくわしい記録になっています。—— La red.

まずこの本について：

作者：ロマンドブジンスキ，ルイ・クリストフザレスキ= ザメンホフ

翻訳監修者：青山徹，中村正美，小林司

出版社/ メーカー：原書房（B6判 454頁、2800円）

発売日：2005/01

この本は、エスペラント語の創始者のザメンホフのお孫さんの回想録である。祖父のザメンホフについての話もすこし出てきて、それも面白かったのだけれど、何よりもこの方自身の数奇な人生と体験談がとても感銘深く、とても胸打たれ、面白かった。ザレスキ・ザメンホフは、ザメンホフの孫としてワルシャワに生まれ育ち、幸福な家庭で、幼少時より世界のエスペラント大会などにも出て、とても幸福な幼少時代を過ごしたらしい。それが、14歳の時に第二次大戦が起こったことにより、一転して筆舌に尽しがたい辛酸をなめることになる。

父や叔母たちはナチスに殺され、自身もゲットーにユダヤ人として入れられ、何度も絶体絶命の危機をかいぐりながら、20歳の時に終戦を迎えるまでに奇跡的に生き残った。その体験談は、そのまま映画になると思われるほど、とても

すごいものだった。なんというか、あの時代のポーランドとユダヤ人の経た体験というのは、あらためて、なんというか、あまりにも過酷過ぎるとしか言いようのないものだった。

そして、ナチスのあの狂気は、いったいなんだったのだろうとあらためて思う。ザレスキは、戦後は建築学を学び、PSコンクリートの分野では世界的な権威となって、世界のあちこちに巨大な建物を建てているそうである。北海油田のコンビナートや、なんと日本の瀬戸大橋へのアドヴァイスもしたらしい。

この本は、前半は戦時中の数奇な運命の回想、後半は戦後の仕事の話を少々、そして後半は各地のエスペランティストを訪れた時の思い出、ザメンホフや家族のこと、およびこれからの世界やエスペラントについて語っており、どれもとても興味深かった。

EUや国連の、膨大な翻訳の手間を省き、紙資源の浪費をやめるためにもエスペラントが大きな寄与をできるはずだとの示唆も、とても興味深かった。

エスペラントは、本当に使いやすく、生命力があり、誰でも容易に習得できる言語だと、いろんな実例を聞いていてもあらためて思う。ハンフリー・トンキンという英米文学の研究者の「人はエスペラントに生まれている」という言葉も、なるほどーと思った。

あと、何よりも興味深かったのは、ザレスキさんの、それほど絶望的な体験を経てきたにもかかわらず、一貫して深い人間への愛と強靱な意志を感じさせる語り口である。特に、「しかし、“希望”はただ受身で待っているのではなく、積極的な姿勢を必要とするものです。」(407頁) という言葉は、なるほどーと思った。「希望が終る時、地獄が始まる。」というのも、そのとおりと思った。

人類の未来や相互理解や友愛については、今日、楽観的な要素よりも悲観的な要素の方が目に付きやすいかもしれない。事実を見れば、二十世紀や、二十一世紀初頭のこの数年間の出来事だけでも、人を絶望させるに足る出来事が山のようにあった。しかし、そうした状況にあって、なおかつ絶望せずに、希望を人が持つためには、人には希望の種が必要なのだろうと思う。

そして、希望のないところには、究極的にはみじめさと不幸しかないのだろうとも思う。この本からは、一貫して、何かとても強い意志、強靱な意志のようなものを感じただけけれど、読み終わって、それが「希望」への意志だったのだと、

わかった。

そして、その背景にあるのは、エスペラントなのだろうということもわかった気がした。あと、読んで、ブラジルのボーナ・エスペロー (Bona Espero) という、孤児を集めて農園で共同作業をして自助自活の術を身につけるための団体の話が、なんだか心にとても残った。世界のあちこちに、そうした、貴重な人たちがいるのだなあ。

大事なのは、大海の一滴だとしても、良き大海の一滴になることなのだろうと思う。良き大海の一滴こそが、希望の種であり、人類の希望を本当に支えていくものなのだろう。ザメンホフの始めたエスペラントは、本当に、確実な、希望の一滴一滴であり、それがどんなに力強いものであるか、この本であらためて教わった気がする。

Neĝa Katastrofo en Japanio / 日本の豪雪災害

(「Monato」投稿中)

KAWAI Yuka

この冬の豪雪は各地で記録破りだった。交通機関の乱れ、運休、交通事故、除雪作業中の事故も相次いだ。しかし この困難を乗り越えるために生まれた住民たちの助け合いの絆は 今後も続いてほしい。(La red.)

Lastvintre tra la mondo furiozis malvarmego. Japanio ne estis escepto. En la Norda Japanio - la norda parto de Honŝuu (la plej granda insulo en la Japana Insularo) kaj Hokkajdo (la plej norda insulo en la Japana Insularo), kiu apartenas al multneĝa regiono, la loĝantoj kutimas je malvarma kaj neĝa klimato. Tamen ĉi-foja granda neĝfalo surprizis eĉ ilin.

Mi loĝas en eta urbo en la centra Hokkajdo. Vintre ni, la loĝantoj, devas forŝoveli neĝon antaŭ la enirejo de nia domo preskaŭ ĉiumatene. Ofte ni devas "elfosi" nian aŭton sentegmente parkitan. Tio estas por ni kutima laboro en vintro. Tia vintro daŭras ĉirkaŭ kvin monatoj.

Tamen, en la lasta vintro la "kutima" laboro peziĝis multoble pro neĝego. Laŭ mia urbo, fine de februaro profundeco de neĝamaso estis 1m 51cm (en la antaŭa vintro 45cm), kaj akumulita neĝfalo ĝisvenis ĝis 13m 66cm (en la antaŭa vintro 5m 97cm).

*Se ni kalkulas la kavanton de la tuta neĝfalo dum la vintro, ĝi atingas 13.66 metrojn.

Kelkaj observo-punktoj tra Hokkajdo renovigis sian neĝfalan rekordon. Kvankam la gubernio Hokkajdo preparis 9 miliardojn da jenoj kiel la buĝeton por neĝforigo, tiu sumo elĉerpiĝis frue dum la vintro. La gubernio aldonis 1.4 miliardojn da jenoj. Ne nur la gubernio sed ankaŭ multaj urboj/vilaĝoj frontis al manko de buĝeto por neĝforigo.

Vivoj de la loĝantoj estis serioze influitaj. Senhomaj domoj ofte rompiĝis pro pezo de neĝamaso. En mia urbo kun 26000 loĝantoj unu homo mortis kaj 12 homoj vundiĝis, defalinte de la tegmento dum forŝovelado de neĝo. Aŭtoveturigado fariĝis malfacila, ĉar laŭ la vojo staris altaj neĝmuroj - pli altaj ol korpalto de plenaĝulo - kaj en multaj lokoj oni ne povis vidi sian ĉirkaŭon. Nombro de trafikaj akcidentoj estis pli granda ol en averaĝaj vintroj. En Hokkajdo lastvintre entute 1700 trajnoj haltis pro tro densa neĝblovado.

Tamen ĉi tiu severa vintro havis alisence pozitivan flankon. Tio estas plifirmiĝo de kunlaboremo inter homoj. Vojoj malvastiĝis pro neĝamaso, do veturantoj trairis la krucvojon, reciproke salutante kun rideto. Najbaroj kunlaboris. En januaro mi kun miaj familianoj malestis hejme dum unu semajno. Kiam ni revenis hejmen vespere, ni trovis la enirejon de nia domo senneĝa. "Kiu faris tion por ni?" Mi interdemandis kun la edzo. Ni alportis donacon al iu najbaro kaj demandis pri la "ies" bonkoreco. Li tuj simple respondis "Mi faris. Ne gravas." Ni ripete danksalutis. Tiamaniere la homa ligo plifortiĝis.

Severa norda klimato necesigis al ni interhelpon. Mi esperas, ke tia kunlaboremo ne estos forgesita kiel tempa furoro.

Jen informetoj spikumitaj el la reto:

*原子力発電所関係

「メルトダウン」は、「炉心溶融」(kernofandiĝo, fandiĝo de reaktorkerno)として用語集に出ています。炉心が溶けて圧力容器の底にたまることです。圧力容器の底を突き破って格納容器の底に落ちると「メルトスルー (溶融貫通)」になります。英字新聞では “melt-through” のように引用符つきで使われていますので、専門用語というよりはニュース用語と言えそうです。エス文では、La reaktorkerno fandiĝis. La fandajo (fandiĝinta kernomaterialo) ne nur atingis sed traboris la fundon de la reaktorprenujo (kaj akumuligis sur la fundo de la reaktorsekurujo). のように記述すればよいと思います。「メルトスルー」を敢えて一語で言うとなれば、reaktorfundofandiĝo または reaktorfundo-traborado pro kernofandiĝo でしょうか。

★小説のタイトルにエスペラント

第22回早稲田文学新人賞を受賞した作家 間宮緑 (1985～) の最新刊の小説『塔の中の女』(日本語)のタイトル (Turvirino) や各章題にエスペラント語が付けられています。

また、彼のエッセー集「午後の自画像」には「エスペラントの光と影」という14ページにわたるエッセーが収録されています。

いずれも公立図書館には普通は蔵書されています。

早稲田大学と言えは五木寛之ですが、彼の「青春の門」第7部 挑戦篇上には20ページ以上に亘ってエスペラントのことが出てきます。

主人公がエスペラントを勉強するからです。

Ni laboru kaj esperu, estonto estas nia. などの文章も出てきます。

★エスペラントという名前の花

ピンクのクレマチス (和名てっせん) で名前がエスペラント という花を見つけました。誰が命名したのでしょうか。

因みに薔薇のエスペラントは真っ赤な色ですね。

*LA PACIFIKA KURIERO, La Informilo de la Asocio de For-Orientaj Esperantistoj: 極東ロシアエスペラント協会、Декабрь (decembro), 2011 Noll (26); A5X8頁のうち3頁はロシア語、あとはエスペラント。内容は Vladivostoka E.-Klubo Pacifiko の30周年記念行事、2010年エロシェンコ生誕百二十年、日韓共同エスペラント大会、毎年行われる沿海州の民族文化祭 (沿海州には百以上の民族が住む)、など。

*Eskalo 2012 年1月18日発行 143号 (2012 年第1号)、川崎 E. 会、B5 X6 頁、E. 文なし。「県立高校でエスペラント語の講演会」はアレクサンドラ綿貫さんにポーランドのマンガ事情をエスペラント聞く催し。大いに生徒の関心を集めたがアレクサンドラさんは日本語の講演は不慣れなので、通訳つきとし生徒に E. 広報パンフを配った。

「似非エスペランチストビアウィストックに行く」は人形劇団の来日事務のため2泊3日のかけ足旅行記。

*Novajoj Tamtamas: Internacia Gazeto de Jokohama Esperanto-Rondo (JER, Hama-Rondo); N-ro 269/ marto 2012, A4X4頁、全文 E. NIAJ PLANOJ, TIEL OKAZIS LA KLASOJ, TIEL OKAZIS LA PRELEGO (de ALEX HUMET k. SUZUKI KEIICHIRO), RAPORTO kaj ESEO.

*La Tamtamo: 第441号, 2012年3月号, A4X8頁、横浜エスペラント会/JER 発行、日本文。歌曲 (みつばちの子の巣立つ朝: 秋田雨雀作詞、山田耕彦作曲、伊東三郎 Esp. 訳) を札幌の日本大

会で歌おうという提案も。

*世界の反響 Eĥoj de la mondo 横浜再生のシンボルたち 2012 JER 関東大震災で 95%の建物が倒壊した横浜を立ち直らせた施設群の DVDに東日本大震災の画像・説明も加えてエスペラント版を作り94ヵ国の 114団体・個人に送り寄せられた反響の集計。

*Mejlstono: 2012 marto n-ro 228 仙台 E 会: B5X12 頁中 E. 文6 頁弱。Mia peto al simpatiemuloj/ Gotoo Hitosi は昨年津波被災地あちこちの思い出と説明。Bildkarto de Doi Eiichi/GOTOO H. は詩人土井晩翠の子息でエスペランチストだった土井 (ツチイ) 英一の自筆はがき (1928年) のコピーと説明。

*La Informilo de NEC/センター通信 第266号 2012年3月12日 名古屋エスペラントセンター発行、B5 X12頁のうち E. 文1頁は Ni multe enmanigas per Esperanto rarajn kaj valorajn spertojn/Hideko は30年前名古屋の南山大学に留学していたハンガリーの d-ro Márkus Gábor の来訪について。

人間の命を考えさせた本/山田寛人と「わが身は炎となりて」を読んで/山田義 は昨年末出た比嘉康文の本についてのもの。寛人さんは自分の知らなかった時代の雰囲気を生々しく感じて引き込まれ、義さんはこの本で自分のいた当時の状況を振り返っている。

*Ponteto/ (Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo: 関東エスペラント連盟)/Martto 2012 N-ro 251,

B5 X16頁のうちE文3頁。関東E. 大会(6月箱根)、八ヶ岳合宿(4月下旬)、講習会、一日公開講座など行事予定盛りだくさん。Letero de Tigro (2)/Tigro(Bill Mak) は災害や危険を感じたときの日本人の行動様式への分析的考察。

*La Vulkanio; N-ro 166 Printempo 2012; LA ORGANO DE HUKUOKA ESPERANTO-SOCIETO. B5 X8頁のうち6頁は11月に亡くなられた西田光徳さん追悼記事。La red. にとっても半世紀を越える fidela samideano だった。E. 文は1頁強。この号のカラー写真は1頁の西田さんと最後の頁のザメンホフ祭の2枚だけ。

*Eskalo 2012年3月28日 第144号(2012年第2号), 川崎E. 会、B5 X8頁のうちE. 文1頁弱。巻頭記事は「川崎市ボランティア・市民活動フェアに参加」、ここでのミニ講座で学び入会した人がベトナムの世界大会に参加の予定。

*受講生通信 第141号, 2012-04-01, 沼津エスペラント会, B5X12頁の内E. 文は15行。いつもながら行事予定、受講者紹介、お便りでいっぱい。

*NOVA VOJO: N-ro 483 APRILO 2012, EPA(エスペラント普及会) A5 X32頁の内E. 文6頁。Esplorado de Vivĝojo(生きがいの探求) / 出口日出磨 と En miaj knabinaj tagoj(おさながたり) / 出口すみこ が対訳で連載中。

*Novajoj Tamtamas: JER, Hama-Rondo N-ro 270/aprilo 2012, A4X4頁、全文 E. NOTICO として JER (横浜E. 会) が

JEI の団体会員になった、との通知。ESEOJ の Paŝ-paŝ-paŝ/SIBAYAMA Noriko は一種の「かなしばり」体験記。BELETRO 欄の Unu pirarbo---rakonto de Serbio は Vasiliĵ Eroŝenko の童話「一本の梨の木」のエスペラント訳連載開始。

*La Tamtamo: 第442号, 2012年4月号, A4X8頁、横浜エスペラント会/JER 発行、日本文。3月のハマロンダ・ベスピーロはE. 125年に当たりカロチャイとセケリの話。読書会報告は Sten Johansson の Trans maro kaj morto について解説と4人からの長い読後感。この機関誌の内容、Novajoj Tamtamasのエスペラント文に共通部分が出ることもある。

*La Movado N-ro 735 majo 2012, KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ (KLEG, 関西エスペラント連盟) 発行、B5 X16頁のうちE. 文2頁強。

トップ記事は「第97回世界エスペラント大会(ハノイ)に参加しよう!」Salono の「”奇妙な言語”の意味」と「言葉の本質は、音ではないか」は3月号の「10月号『漢字の呪縛』を読んで」に対する反応。議論のはじまりは「漢字が日本語をほろぼす/田中克彦/岩波新書」にあり、日本語の本質的な問題を論じている。

*NOVA VOJO: N-ro 484 MAJO 2012, EPA(エスペラント普及会) A5 X32頁の内E. 文9頁。第22回国際エスペラント合宿(3月31日~4月1日、大本熊本本苑にて、韓国と日本から31名参加)の報告、感想などが6頁。

Protokolo de la 12a Kunsido de Loka Kongresa Komitato por
la 99a Japana Esperanto-Kongreso [第99回日本大会12回LKK 議事録]

日時：2012年3月11日（日）13：15～16：00

場所：札幌エルプラザ 男女共同参画研究室1

出席者：星田（進行）、（KKS）犬丸、後藤（義）、川合、阿部、後藤（純）〔記録〕、
（オブザーバー）：山下、小淵、末永

[議事]

1, RO誌5月号日本大会特集記事担当分担（締め切りは3月末、ぎりぎり4月初）
・ 大会参加の呼びかけ→後藤（義） ・ 記念出版紹介→後藤（純） ・ 記念講演→星田
・ 観光案内→Heroldo 3月号の記事を使う ・ 北海道のエスペラント運動→星田
北海道といえば・・・→川合

2、シンポジウム→講演に変更

講演依頼をしている北海道開拓記念館の学芸員にアイヌの同化政策（アイヌ語の抑圧を含めて）について講演してもらう。事前にレジュメを貰い、エスペラント訳をして 配布。

3、ロシアの参加者への招請状

参加はウラジオストクのS-ro Titajevのみ。招聘人はJEI。身元保証人は、横山。現在、ヴィザ関係の書類を星田が作成中。T氏は、環境保護に関する講演も準備して来る とのこと。費用は、JEIの国際交流費+大会費用から。

4、分科会・・・現在、申し込みが、来ているもの

- A. 東アジアの社会運動とエスペランティスト報告と討論→責任者：宮沢直人
- B. エスペラント映画 (Domo de Fantomoj) 上映→ 責任者：藤井由美子
- C. エスペラントで歌う会→責任者：山田義、牧野三男

部屋割りについては、分科会の申し込みが全部出ていないので現時点では未定。

A: 2コマを希望。大会の趣旨にそった内容になるよう委員長より声かけをしてもらう。

B: 上映方法は、責任者に問い合わせたところプロジェクター、スクリーン、パソコンが要る。時間：100分

C: ピアノのある部屋（リハーサル室）を3コマ希望。責任者に日時を問い合わせる。

5、Amika Vespero

司会：蒲池富美子さんが引き受けて下さった。樺山さんにエスペラント落語“時

そば”を川合から、オークションを田平さんに犬丸から依頼する。

6、環境関連E 語彙集作成

メーリングリストErajでE-istoに呼びかけ中。完成したらプリントする→担当：川合

7、記念切手等

記念切手は、3種類（熊、フクロウ、シカ）を作る。フクロウ、シカは試作品どおり。葉書の印刷代は、エンブレムの図案？500枚（2万5千円）、1,000枚（3万円）

である。注文数は、次回検討。立待岬の図案の葉書は、山田義さんに印刷を依頼する。8、大会後観光

担当委員（後藤義）に取り寄せて貰ったJTB 観光と道新観光の見積もり（58人参加を想

定）を検討。昨今のガソリンの高騰事情もあり、バス代が高く、JTB、道新観光とも一人当たり17,700円となり、追加料金の徴集は止むを得ない。しかし、元々安すぎる旅行代金を設定しているので、参加者に了解してもらう。

9、その他

○大会合唱のテーマソングは、指導者の山田義さんと牧野三男さんの意見で「この道」に決定。

○犬丸より第99回日本エスペラント大会計画書の説明があった。

○バンケード参加者は、150人で予約しているが、100人に減らす。

○弁当の見積もり数も減らす。

○後援依頼？横山担当分（道教委）、阿部担当分（札幌市、市教委）は、書類を犬丸から送ってもらって持参する。後藤（純）担当分（道、NHK）は、急ぐので直接先方へ送ってもらう。

○”La Espero”と“La Tagig`o”の伴奏は、田中禎一氏に依頼する。

○大会臨時郵便局を開く事に難色を示していた「かでる」から許可が出た。これは、5枚もの資料をつけ、申請書を作成して提出された後藤義委員の尽力による。

○知立市の磯部晶策氏より日本大会に向けて、道庁知事室、広報部（マスコミ関係）の岩下氏を訪ねるよう助言をもらっているため、委員長と後藤（純）が知事のメッセージを依頼するために訪問する。以上

☆次回委員会：5月20日（日）午後1時より札幌エルプラザにて

（のち5月13日（日）に変更）

日時 : 2012年3月11日(土) 16:10 ~17:00

場所 : 札幌エルプラザ 男女共同参画研究室1

出席者: 星田、後藤(義)、川合、阿部、山下、小渕、末永、後藤(純)[記録]

[議事]

1、組織

新規加盟者、退会者なし。会費未納者: 5名

2、財政

エルプラザのロッカーを大型に変えたので月額700円×12ヶ月=8,400円出費/年 となる。4月1日から使用開始。

3、広報 (HP)・メールマガジン

- ・ホームページ3/19日現在のアクセス数67,494
- ・メルマガ153号 まぐまぐ360部、メルマ107部、計467部

4、情報宣伝 (マスコミなど)

・2/19朝日朝刊書評欄 “我が身は炎となりて” 比嘉康文「日本人とベトナム戦争」描く

・3月公開の映画 “ドラえもん” 「のび太と奇跡の島」でエスペラントを話す島の住民が 出て来る。島の名前は、ベレーガモンド (Belega Mondo)

5、教育・研究

- ・月曜会: 「星の王子様」、次のテキストは、シャーロックホームズ?
- ・土曜会: ” SUR SANGA TERO”
- ・苦小牧: 入門クラスー文通、読書クラスー「銀河鉄道の夜」

5月に入門講習予定

6、機関誌

140号を90部発行。観光案内を入れたので20ページだて。

7、年間計画

- ・エルプラ祭りー9月8日(土) 参加予定、日本大会の宣伝を企画する。
- ・北海道大会? 10/28(日) 日本大会の反省、大会記録ビデオ上映。参加費なし

8、国際交流

海外からの大会参加者と交流

9、☆次回委員会→2012年5月20日(日)午後、札幌エルプラザにて
(のち5月13日(日)に変更)

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

*Pardonon!! 前号 No.140 の6頁、「札幌市における月間降下物放射能濃度」の図表の一部が欠けていました。文章のうち明らかな誤りは直しましたが、原文は文字に「色」が付いていたので印刷すると濃淡が付いてしまった。もう少し編集に余裕がほしかった。

*JEI-anoj, vi rimarkis, ke 11 paĝojn plus 1 paĝon de kolorfotoj el la maja numero de La R.O. okupas kontribuo el ni, hokkajdanoj. 多謝!

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、 青年会員(26歳未満) 1500円、
購読会員 2000円、 家族会員 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

*Redaktas la Organa Fako de HEL

*編集: 連盟機関誌部

ĉe HOŝIDA Acuŝi

〒053-0844 苫小牧市

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

宮の森町2丁目18-18

053-0844 JAPANIO

星田 淳 方

TEL-FAKS:0144-74-2539

Retadreso:hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

Postĝirkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

*Sekretario: KAWAI Yuka

*事務局: 川合由香

N-ro 45, Simin-Katudō-Sapōto-Sentā

〒060-0808 札幌市北区

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

北8条西3丁目札幌エルプラザ

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

市民活動サポートセンター レターケースNo.45

TEL-FAKS : 0126-62-4636

Retadreso : nordano@sea.plala.or.jp

*TTT-ejo : <http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm>